

小尿管 モ亦異物ヲ宿スヲアリ。

眼窩 深部ニ異物侵入スル時ハ眼窩創傷症狀、X光線所見等ヲ参照シ慎重ニ消息子ニテ搜索スベシ。

三、挫傷。

ニヨル組織ノ損傷ニ二種アリ、一ハ外力ノ作用セル攻撃點自家ニシテ他ハ組織ノ壓迫性貧シキ時ニ見ル介達的挫傷ニシテ、攻撃點ヨリ稍離レタル部位ニ損傷ヲ生ズ。

1、眼、球、挫傷、

眼被膜ノ破裂無キ時

角膜

比較的稀ニ損傷ヲ受クルモ、鈍力作用後、雲絮狀或ハ線狀ノ實質性溷濁ヲ生ズルヲアリ、

上皮損傷ヲ受クル時ハ圓板狀、角膜、炎、匍行性、潰瘍、等ヲ生ズル恐アリ、

出血ハ或ハ前房ニ、或ハ硝子體ニ來ル、常ニ葡萄膜系ノ損傷ニ因ル、

虹彩 損傷ニハ虹彩斷裂症、虹彩剝離症、括約筋斷裂アリ。時トシテ散瞳症ノ發スルヲアリ。縮瞳症ノ發スルヲアリ。

反射性瞳孔強直症モ外傷後ニ來ルヲアリ。

虹彩外傷ノ中、豫後最モ佳良ナルハ瞳孔縮小症ナリ。

硝子體出血ハ全ク吸收セラル、迄ニハ少クモ二ヶ月ヲ要ス、患者ノ年齢若キ程吸收迅速ナリ、老年ノ時ハ多少硝子體溷濁ヲ遺殘ス。時トシテハ血液ガ結締織化シ、因リテ以テ網膜剝離ヲ惹起スルヲアリ。

前房出血ハ比較的速ニ吸收セラル、吸收遲緩ナル時ハ之硝子體出血ヲ兼スルノ證ナリ、注意スベシ。

毛樣體 ノ挫傷時ニハ出血ノ外毛樣充血、羞明、壓痛アリ、屢、近視及縮瞳症ヲ生ズ。

脈絡膜 ニハ出血ヲ生ズ、時トシテ硝子體ニ出ルヲアリ。

又屢、脈絡膜破裂ヲ生ズルヲアリ、破裂ニ直達性及介達性ノ二種アリ、

眼球後部ニ存スルモノハ介達力ニヨルモノニシテ、硝子體出血ノ吸收セラル、ト同時ニ、乳頭ノ周圍ニ同心性弓狀白色ノ破裂面ヲ發見スベシ。

網膜 挫傷ノ後ニハ網膜出血、硝子體出血、網膜剝離ノ外、外傷後數時ニシテ發スル灰白色乃至乳白色ナル溷濁アリ、名ケテベルリン Berlin 氏網膜

震、蓋、症、Comotio retinae ト云フ。溷濁ハ一二日ニシテ消散スルモ網膜剝離ノ來ルコアリ。

黃斑 挫傷後、赤色或ハ黄色斑ニシテ、色素ヲ具有スルモノ出現スルコアリ、黄斑穿孔時ニハ淡紅色ノ $\frac{1}{2}$ 乃至一乳頭大陥凹ヲ發見スベシ。

水晶體 挫傷後溷濁ヲ起スコアリ。

變位ニハ種々アリ、其不全脫臼ニ止マルコアリ、續發性線内障及虹彩毛様體炎ニ注意ヲ要ス。

完、全、脫、臼、瞳孔眞黑、虹彩震盪、反射像ノ缺如、高度ナル遠視等ニヨリテ水晶體ノ缺損ヲ確認スベシ。硝子體、前房等ニ脫臼シ、種々ナル續發症狀ヲ惹起スルコ多シ。

眼被膜ノ破裂セル時

直達外力ニ因スル破裂 多クハ角膜ニ在ルカ、或ハ角膜ヨリ鞏膜ニ亘ル。殊ニ小ナル鈍器例ヘバ銃彈等ニヨリテ起ル破裂ノ時ハ、創口極メテ不正ナルヲ以テ傳染ノ虞多シ。眼深部迄傷害ヲ受クルカ、或ハ脫出スルコ多クレバ豫後ハ概シテ不良ナリ。

介達外力ニ因スル破裂 ノ生ズルニハ外力ノ強度ヨリモ寧ロ其作用方面ニ關係アリ、例ヘバ直前ヨリスル外力ハ、脈絡膜ノ破裂ヲ惹起スルモ眼被膜ハ破レズ、之ニ反シ外力側方ヨリ來ル時ハ、眼球眼窩ノ爲メニ抵抗ヲ受ケ、其結果破裂ヲ生ズルモノニシテ、其位置ハ通常鞏膜ニアリ、テ、角膜縁ヲ、距、ル、 $\frac{1}{2}$ 、約、二、 $\frac{1}{2}$ 、三、密、迷、ニ及ビ、此ノ縁ニ同心性ニシテ上部又ハ上内部ニアルヲ常トス。球結膜ハ破レタルコアリ、或ハ否ラザルコアリ。

球結膜破レタル時ハ直ニ硝子體ノ脫出ヲ見ルベク、同時ニ虹彩損傷、毛様體、脈絡膜ノ脫出等ヲ見ルコアリ、又化膿ノ虞多シ。

新鮮ナル結膜下破裂ハ時トシテ診斷困難ナルコアリ、蓋シ破裂部ハ初メ出血ノ爲メニ被ハレテ明カナラズ、但シ眼球ヲ觸ル、ニ軟ニシ且眼内部ニ出血ヲ認め、虹彩ノ損傷ヲ具有スル時ハ破裂ト見テ可ナリ。結膜ノ膨隆、時ト共ニ消退スレバ、此部ニ青黑色線ヲ結膜下ニ透見シ、以テ破裂アリシコヲ知ルヲ得。

扁平ニシテ半透明ナル隆起物結膜下ニアル時ハ、結膜下ニ脫臼セル水晶體ヲ想像セシム。

結膜下破裂ハ穿孔性破裂ニ比シテ豫後適ニ佳良ナルモ、危険ナキニ非ズ。
口、眼、及、近、圍、ノ、挫、傷、

眼 腫 ニアリテハ出血、血腫ヲ生ズ、

球結膜 ニモ屢、出血、浮腫ヲ認ム。

外傷直後ニハ之ナク、數時間後ニ初メテ出現スル眼腫下出血ハ、眼窩深部若クハ頭蓋損傷ヲ疑ハシム。

眼窩 モ亦直達外力若クハ介達性外力ニヨリテ種々ノ損傷ヲ蒙ルコト、例ヘ

バ頭蓋骨折ニ方リテ眼窩ニモ骨折ヲ生ズル如キ場合アリ。斯カル時ハ外傷後數時ヲ經テ眼、鼻、頰部皮膚下ニ出血ヲ見ルコトアリ。眼窩縁若クハ軟部ノ損傷ナラバ、出血ハ損傷直後ニ現ハル、ヲ常トス。

眼窩深部ニ出血アラバ尙ホ、眼球突出ヲ生ズルコトアリ、尙ホ之ニ搏動ヲ兼

ヌル時ハ骨壁骨折ニシテ、動脈靜脈瘤ヲ形成セル時ナリ。

眼窩骨壁ノ損傷ニヨリテ挫傷後、眼球陷沒症ヲ見ルコトアリ、

眼窩外傷ノ併發症トシテ屢、眼球運動障害、位置異常、知覺異常、視力障害等ヲ

見ル。

見ル。

眼窩壁骨折ハ又屢、隣接副鼻腔ノ外傷ヲ併發シ、之ニヨリテ氣腫、Emphysemヲ眼窩及眼瞼ニ生ズルコトアリ、此時ハ一種雜音ヲ觸知スベシ。

眼窩外傷症候ノ外ニ、鼻及耳ヨリ出血アリ、意識障害、嘔吐等アレバ外傷ハ

頭蓋ニ及ベルヲ知ルベク、視神經ヲ損傷スレバ視力障害並ニ視神經萎縮ヲ見ル。

ヲ見ル。

乙 熱並ニ化學的作用ニ因スル外傷

火傷、凍傷、腐蝕

外力ノ作用高度ナレバ其部ノ壞死ヲ生ジ、後ニハ瘢痕ヲ形成シ屢、萎縮ヲ見ル。

比較的多キハ熔融セル金屬例ヘバ鉛、鐵片等ノ飛入ニシテ、腐蝕ハ多ク石灰ニ因ル、凍傷ハ少ナシ。

眼 瞼 顔部外傷ノ部分現象タルコト多シ。

結膜 火傷腐蝕ノ時ハ結膜ノ充血腫脹、義膜形成、纖維素性分泌アリ、球結膜モ炎症ニ與ル。外力ガ作用セル深度ハ數日後ニ至リテ初メテ判斷シ得

ルコ多シ、但シ石灰腐蝕ノ際ハ初メヨリ灰白色ヲ呈シ、重傷ナルヲ知ルベシ。壞死ニ陥レル部ハ後ニ分離シ、癩痕ヲ形成シ、或ハ兩創面癒着シテ、險球癒着症ヲナスコアリ。

角膜 表層ノ火傷ハ上皮ノ潤濁ヲ生ジ、疼痛甚シキモ豫後甚ダ可ナリ。深層侵サレタル時ハ癩痕強シ。

石灰腐蝕ニ方リテハ、壞死ノ外ニ石灰ノ沈着ヲ生ズ。

電氣太陽、X、ラヂウム光線ニ因スル傷害

弧光燈、水銀蒸氣燈ヨリ發スル強度ノ電氣光線ハ、其紫外光線含有ニヨリテ眼ノ**表層性急性炎**ヲ生ズ、之ヲ**電氣性眼炎**ト云フ。數時間ノ潜伏期ノ後、眼瞼並ニ結膜ノ充血腫脹、流淚異物感、纖維素性分泌、毛様充血アリ、激症ニアリテハ虹彩充血及表層性角膜炎ヲ惹起ス。診斷ハ既往症並ニ分泌物中ノ「エオジン」嗜好細胞含有ニヨルベシ。

同種ノ炎症又太陽光線ニヨリテ惹起セラルルハ、夏時海水浴場、雪野、氷山航空旅行後ニ見ル所ナリ。是等強烈ナル光線ハ又眼ノ**深部傷害** 特ニ網膜損傷ヲ生ズ。羞明、視力障害殊ニ中心暗點是ナリ、其一

過性ナルコアリ、持続性ナルコアリ、後ノ場合ニハ黃斑ニ小斑ヲ認ム。
X光線「ラヂウム」光線作用ハ又眼前部ノ炎ヲ發スルコアルモ、眼深部特ニ網膜ノ損傷ヲ由來スルコナキニ非ズ、注意スベシ。

丙 交感性眼炎 Ophthalmia sympathica

一眼刺戟状態ニ在ル時、例ヘバ角膜異物、角膜、虹彩等ノ炎症アルニ方リ、他眼モ亦刺戟セラレ、羞明、流淚、眼精疲勞ヲ訴フルコアリ。斯カル時ハ第二眼ニ於テ僅微ナル毛様充血ヲ認ムルニ過ギズ、之ヲ名ケテ**交感性刺戟**ノ移行ト云フ。

此第二眼ノ刺戟状態ハ通常何等ノ意義ヲ有セズ、然レモ若シ茲ニ第一眼穿孔性外傷ヲ蒙リタル後、虹彩毛様體炎ヲ發シタリトセヨ、此場合ニ於テ第二眼ニ發見スル刺戟状態ハ時トシテ外傷眼ノ炎ガ、他眼ニ轉移セル第一症候タルコアリ。斯カル穿孔性外傷ニ次デ起ル第二眼ノ炎ヲ名ケテ**交感性眼炎**ト云ヒ、其前驅症ヲ**交感性刺戟症**ト云フ。

交感性眼炎ノ原因ハ、眼球ノ穿孔性外傷、特ニ毛様部ノ外傷ニアルヲ以テ、

治療ノ目的ヲ以テ施行セル手術例ヘバ水晶體摘出術ノ後ニ之ヲ發スル
コアリ。

然レハ穿孔性外傷ニ傳染起レル時、每常交感性眼炎ヲ發スルニ非ズ、例ヘ
バ化膿傳染、全眼球炎ニ之ヲ見ルガ如キハ除外例ニシテ、寧ロ緩慢ナル經
過ヲ執ル虹彩毛樣體炎最モ危険ナリトス。而シテ該眼ニ網膜剝離、内壓減
降、眼球癆等ノ變化アルモ、尙交感性眼炎誘發ノ危険ナシト云フベカラズ。
第一、眼ノ變化ハ多クハ纖維素性、成形性、虹彩、毛樣體、炎、ニシテ、眼前部及脈絡
膜一體ノ圓形細胞浸潤ヲ生ジ、一見結核ニ類スル組織學的變化ヲ生ズ。
第二、眼ニ於ケル變化ハ、
一、成形性、葡萄膜炎、羞明、流淚ト共ニ屢、調節不全ノ前驅スルコアリ、此時
ハ近點遠隔ス。

炎ノ初期ハデセメット氏膜ニ小ナル沈着ヲ生ジ、輕度ノ充血アリ、所々ニ虹
彩後癒着ヲ認ム、稍急性ノ經過ヲ取ルモノアリテハ虹彩ノ腫脹、充血著シ
ク、成形性滲出物ヲ生ジ、遂ニ瞳孔領ヲ閉鎖スルニ至ル。
二、漿液性、葡萄膜炎、主トノ毛樣體侵サレ、經過ハ極メテ緩慢ナリ、唯角膜

ノ裏面殊ニ下部ニ小ナル沈着物ヲ見、輕微ナル毛樣充血アリ、炎症數週ヨ
リ數ヶ月ニ及ブ、凡テ第一型ノ輕度ナルモノト見バ可ナリ。
三、交感性、乳頭網膜炎、眼底検査上乳頭ハ充血シ其境界不明、動脈狹小、靜
脈怒張シ、網膜ハ稍、溷濁ス、眼球外部ニハ何等炎症ノ認ムベキモノナク、單
ニ視力障害ノ訴アルノミ。

交感性眼炎ノ本體ハ今日尙ホ闡明ナラズ、從テ諸家ノ説ク所ハ孰レモ假
定説ニ過ギズ、然レハ、恐ク今日未知ナル微生物ノ外傷ト共ニ、眼球内ニ侵
入スルニヨリテ起ル、一種未知ノ傳染疾患ナラント推セララル。

但シシユミットリンナレルノ稱フル改訂毛樣神經說ノ根據ヲ奪取センガ爲メ
ニ試ミタル、ロエメルノ實驗ハ不完全ニシテ反證ノ價值ナシ。

交感性眼炎ノ襲來スルヤ多クハ外傷後四―八週ヲ最多トス、然レハ日魯
戰役ノ夥多ナル實驗ニ據レバ十日以内ニ發セル事實アリ、又外傷後數年
乃至十數年ニシテ尙交感性眼炎ヲ起セル實例アリ、斯カル時ニハ疼痛性眼
球癆多シ。

診斷。穿孔性外傷後慢性虹彩毛樣體炎一眼ニ起レル時、數週内ニシテ他眼

ニ同様ナル虹彩毛様體炎ヲ來シ、他ニ何等原因ノ求ムベキモノナキ時ニハ恐ク交感性眼炎ナラン。ワッセルマン反應施行必要ナリ。
 豫●後●ハ甚ダ不良、其ノ半ハ失明ニ陥ル、第一眼ノ摘出ニヨリテ多少ノ輕快ヲ見ルコトアルモ不定ナリ。漿液性葡萄膜炎及乳頭網膜炎ノ型ハ概シテ豫後稍佳良ナリ。

附 錄

眼科診斷ニ必要ナル一ニ全身病ノ診斷

眼疾患ト全身病トノ關係ハ頗ル密接ニシテ其交渉ハ多種多般ナリ。一々其巨細ヲ述ベント本書ノ到底能クスル所ニ非ズ、故ニ今特ニ眼疾患ト關係アル全身病名ヲ左ニ列記シ、特ニ關係密接ナル微毒及結核ノ診斷法ヲ畧述セントス。

- 一、傳染性疾患。
 腸窒扶斯、回歸熱、マラリア、「インフルエンザ」、關節「レウマチ」、腦膜炎、敗血症、膿毒症、實扶帝里、天然痘、猩紅熱、丹毒、脾脫疽、結核及腺病。
- 二、呼吸器疾患。
 百日咳、肺炎。
- 三、血行系疾患。
 瓣膜疾患、心内膜炎、心筋炎、動脈硬化症。
- 四、消化器疾患。
 耳下腺炎、惡性腫瘍、小兒腸加答兒、腸寄生蟲。

- 五、肝臟疾患。
急性黃疸、熱性黃疸。
- 六、腎臟疾患。
蛋白尿、尿毒症、腎盂炎、膀胱炎。
- 七、神經系統疾患。
頭痛、神經痛、腦神經麻痺。
脊髓 脊髓癆、リットル氏病、多發性硬化症、脊髓炎、脊髓空洞症、脊椎疾患、震蕩症、脊髓出血症。
延髓、四疊體 球麻痺、腫瘍、囊蟲。
腦 充血、貧血、溢血、腫瘍、腦質炎、腦性小兒麻痺、腦水腫、メニエール Meniere 氏病、進行性麻痺狂。
腦膜 硬腦膜炎、竇血栓、腦膜炎。
精神病 神經衰弱、ヒステリー、外傷性神經症、テタニー、舞蹈病、偏頭痛、パーキンソン氏病、癲癇。
- 八、頭蓋畸形。
塔形頭蓋等。
- 九、耳疾患。

- 耳性合併症。
一〇、副鼻腔疾患。
急性及慢性蓄膿症、腫瘍。
- 一一、運動器疾患。
佝僂病、レウマチ
- 一二、血液疾患。
萎黃病及貧血、白血病、「スコルブート」、紫斑病、惡液質及血液喪失。
- 一三、新陳代謝病。
糖尿病、痛風、肥胖病、粘液水腫、發育不全、脚氣。
- 一四、生殖器疾患。
黴毒、淋、軟性下疳、婦人科疾患。
- 一五、中毒。
酒精、木精、「ニコチン」、硫化炭素、規尼涅、綿馬、「メラグラ」、一酸化炭素、「エルゴチニン」、「サントニン」、「アトロピン」、「モルフィン」等。
- 一六、皮膚疾患。
濕疹、帶狀「ヘルペス」、天疱瘡、硬皮症、「イヒチオシス」、象皮病、多形紅斑、血管腫、色素乾皮症、植物性並ニ動物性寄生蟲。

一七、遺傳性疾患

網膜色素變性、夜盲症、球外視神經炎、黑內障性癡呆症、綠內障及水腫眼、色盲、白內障、眼筋病、發生障礙。

黴毒 Syphilis, Lues

黴毒ノ診斷ハ素ヨリ臨床的所見ニ據ルヲ最モ重要ナルモ、今茲ニハ是以外ノ二三診斷法ヲ述ブ。

甲、スピロヘーテバリダ、Spirocheta pallida ノ檢出法。

「スピロヘータ、パリダ」ノ病原的價値ハ今日確定スルニ至リシヲ以テ其檢出ハ眼科的診斷ニ向ヒテモ價値大ナリトス。暗視野顯微鏡檢査法ハ甚ダ簡單ニシテ、且ツ少數ノ「スピロヘータ」モ容易ニ發見シ得ル其法ナレモ、其裝置稍、複雜ニシテ實地家ニ望ミ難シ、故ニ今實地ニ適スル染色檢出法及墨汁檢出法ノ概要ヲ述ブベシ。

染色檢出法

先ヅ潰瘍面ヲ清潔ニスル爲メ「エーテル」ヲ綿花ニ浸シテ拭拂シ、膿及纖維素性被膜ヲ小刀ニテ抓把シ、出血ヲ避ケ、無色透明ナル組織液ノ出ルヲ待チ、之ヲ豫メ「アルコール、エーテル」ニテ清潔ニセル載物硝子ニ附着セシメ、等シク清潔ニセル覆蓋硝子ノ一邊ヲ以テ、載物硝子ノ面ニ約四十五度ノ角ニ保チ、隅角ニ組

織液ノ來ル様ニシツ、覆蓋硝子ヲ前方ニ壓ス時ハ液ハ、平等ニ薄ク載物硝子面ニ塗布セラル。之ヲ空中ニテ乾燥シ、無水酒精「エーテル」等分液ニ浸スヲ十分ノ後水洗シ、次ニ稀釋ギームザ液(餾水一ccニロマンノフスキ―染色液一滴ノ割合ニテ稀釋セルモノ)ニテ十六―二十四時間染色シタル後水洗シ、濾過紙ニテ水分ヲ吸收シ乾燥、固封、鏡檢ス。赤血球ガ鮮赤乃至暗紅色ナレバ「スピロヘータ」モ同様ニ赤染ス(若シ赤血球ノ染色不充分ナレバ尙ホ一度染色ス可シ)。「スピロヘータ」ノ搜索ニハ先、弱擴大ニテ赤血球ノ個々其ク保存セラレテ明瞭ニ見得ル部ヲ求ムベシ。「スピロヘータ」ハ赤色ニ染ミ、極メテ纖細ナル螺旋狀糸狀體ナリ、其回旋ハ急峻ニシテ其數八―二十六ニ達シ、全長赤血球ノ二―三倍ニ及ブ。急速染色法 組織液ヲ二枚ノ覆蓋硝子間ニ狹ミテ輕ク水平ニ引クヲ血液檢査ノ場合ト同シ、之ヲ空中ニテ乾燥セシメ、其面ヲ上ニシテ火焰上ヲ三通通過セシメテ固定シ、次ニ稀釋ギームザ液(試驗管ノ三分ノ二ニ餾水ヲ入レ其殘餘三分ノ一ヲギームザ原液ニテ充ス)ヲ此上ニ滴下シ、火焰上五仙迷ノ所ニ保チ蒸氣發生スルヲ待チテ之ヲ傾瀉シ、更ニギームザ液ヲ滴下シ、加温シタル後傾瀉ス、斯クシテ全量ノ盡クルニ至リテ止ム、後餾水ニテ洗ヒ、水封鏡檢ス。若シ是等ノ方法ニテ「スピロヘータ」檢出シ得ザレバ腺腫ヲ穿刺シ、其組織液ヲ壓出シテ檢査ニ供ス。

墨汁檢出法

豫メ善瓦ナル墨汁ヲ製セザル可カラズ、之ニハ先瓦墨ヲ硬キ硯ニテ磨リ之ヲ
 試驗管又ハ小沈澱器ニ入レ、約二週間靜置シ沈澱セシメ、其上清液ヲ取りテ貯
 フ、或ハ遠心器ニテ沈澱セシムルモ可ナリ。
 但シ墨汁ニハ常ニ細菌ヲ混シ居ルガ故ニ、永キ時日ニ亘リ貯藏セバ其中ニテ
 増殖シ、檢査ノ障害ヲ來スガ故ニ、蒸氣竈ニテ滅菌シ置クカ、又ハ少量ノ「フオル
 マリン」ヲ加ヘテ貯フルヲ良シトス。
 斯クシテ得タル墨汁液一滴ヲ載物硝子ノ上ニ落シ、之ニ檢査材料ヲ混シ染色
 檢査ノ時ト同シク覆蓋硝子ヲ以テ薄ク平等ニ塗布ス可シ、斯クシテ之ヲ空中
 ニテ乾燥セシメ油浸裝置ニテ鏡檢ス。
 「ス、パ」ハ毫モ染色スルコトナキヲ以テ暗視野中ニ透明ニ出現ス。

乙、血清診斷法 Serodiagnostik

一、ワッセルマン氏反應

ノ要點ヲ概述スレバ同反應檢査ニハ先次ノ五品ヲ要ス。
 1、患者血清 前搏靜脈ヨリ管針ニテ血液ヲ採取シ、之ヨリ遠心器ニヨリテ血
 清ヲ得。
 2、アンチゲーン Antigen 先天黴毒ニテ死セル胎兒ノ肝臟ノ酒精若クハ生理的

食鹽水滲出液。

3、赤血球乳劑 例ヘバ山羊ノ血液ヲ採取シ、硝子球ヲ充テタル器中ニ振蕩シ
 之ヲ凝固セシメズ、其内ノ纖維素ヲ硝子球ニヨリテ附着除去セシメ、赤血球及
 血清ノミヲ得タル後、之ヲ三回遠心器ニヨリテ生理的食鹽水ヲ以テ洗滌シ、妨
 害物ヲリ得可キ血清ヲ除去ス。此ノ赤血球ヲ更ニ廿倍ニ稀釋ス。
 4、媒介體 Anticoeplior 豫ネテ山羊血液ヲ腹腔又ハ靜脈内ニ注射シ、山羊血液ニ對
 シ溶血素 Haemolysin ヲ生ジタル家兎ノ血清。
 5、補體 Komplement 「モルモツト」ノ血液ヨリ得タル血清。
 此内1、2、5ヲ試驗管ニ取り、更ニ健康血清ト2及5ヲ他ノ試驗管ニ取り、其他
 夫レ々々對照試驗管ヲ設ケ、三十七度ノ温中ニ置ク1一時間、取り出シテ3及
 4ヲ加ヘ、更ニ三十七度ノ温中ニ置ク1一時間、取り出シテ管中山羊血液ノ溶
 否如何ヲ見ル。患者黴毒ヲ有スル時ハ、其血清ハ2ト共ニ補體ヲ吸收スルヲ以
 テ、後ニ加ヘタル血液及媒介體混合ハ溶血力ヲ發揮スル能ハズ。之ニ反シ健康
 血清ハ補體ヲ吸收セザルヲ以テ、後ニ血液及媒介體ノ混合ヲ加フレバ溶血ヲ
 見ル。故ニ血液溶解セザレバ反應、陽性、ナリト云ヒ溶解スレバ陰性ナリト云フ。
 該反應ハ黴毒診斷上正確ナル成績ヲ擧ゲ得ルモ多クノ手數、手腕及設備ヲ要
 スルヲ以テ到底汎ク實地家ニ應用セララル、ニ至ラズ、サレバ若シ其反應ヲ知

ラント欲セバ、該反應ノ各地ノ大病院ニテ施行セラル、今日、可檢血清ヲ專門家ニ送附シ其判定ヲ待ツベシ。

尙此反應ニ就テ注意スベキハ、假令反應陽性ナルモ直ニ目シテ其眼疾患ヲ徵毒性ナリト云ヒ得ザルニアリ。元來此反應ハ單ニ徵毒感染ノ存在ヲ指示スルニ外ナラズ(又此反應ハ徵毒ノ外「マラリア」病、「トリバノゾーム」病、「猩紅熱」回歸熱、「フラムベシア」ニモ屢陽性ナレバ注意ヲ要ス)。故ニ其眼疾患ガ徵毒性ナルヲ主張スルニハ、他ノ原因ヲ悉ク除外シ得タル時ナラザルベカラズ。又反應陰性ナルモ其眼疾患ハ徵毒性ナラズト主張スル能ハズ、何トナレバ通常反應ハ感染六週後ニ始メテ出現スルモノニシテ、且隱伏時期ニハ數々陰性ナリ、又特殊療法ヲ施シタルモノモ陰性ナルコトアレバナリ。

二、沈澱反應

之ニモ種々ノ方法アレモ最モ信頼スルニ足ル可キハ照内氏「クオリン」反應ナリ。其法左ノ如シ。

- 1 「クオリン」0.0三ヲ蒸留水一0.0ニ溶解ス。
- 2 患者ノ血清 前搏正中靜脈ヨリ採取スルヲ傾トス。上腕ヲ「ゴム」管ニテ輕ク縛シ靜脈ヲ怒張センメ、局所ヲ酒精及「エーテル」ニテ充分ニ消毒シ、次ニ五.0 c.c

ノ注射器ニ細小ノ針ヲ裝用シタルモノニテ靜脈内ニ刺シ、血液二―四仙迷ヲ吸收シ、之ヲ滅菌試驗管ニ移シ、少シク斜面向トシ靜ニ凝固セシメ、血清ノ析出ヲ待チテ之ヲ「ピペット」ニテ吸ヒ、滅菌試驗管ニ移ス。穿刺部ニハ絆創膏ヲ貼付スレバ可ナリ。

- 3、七本ノ小試験管ヲ並べ、先ツ第二ノ者ニ患者ノ血清0.5ヲ入レ、次ニ第一ヨリ第七迄ノ各試験管ニ0.9%食鹽水0.5宛ヲ入ル、是ニ於テ第二ヨリ液ヲ0.5取リテ第三ニ混シ、更ニ之ヨリ0.5ヲ取リテ第四ニ混ズ、斯クシテ第七ニ及ビ最終ノ0.5ヲ捨ツ。

4、各管ニ上述ノ「クオリン」溶液0.5宛加ヘ、其ヲ振盪シテ混和シ、三十七度ニ保ツ1二時間ノ後其反應ノ如何ヲ檢ス、若シ不明ナレバ更ニ室溫ニ二―三時間靜置シテ檢ス可シ。

5、沈澱ノ有無ハ明窓ニ對シテ試験管ヲ斜ニ持チ、注視スレバ顆粒狀ノ混濁ヲ見ル、反應高度ナレバ管底ニ沈降シ明瞭ナリ、沈澱程度ノモノハ管ヲ輕ク振盪スレバ雲絮狀ヲナスヲ以テ明ナリ。

「クオリン」反應ハ徵毒ノ初期ニハ微弱又ハ陰性ナルモ、第二期第三期ニハ約八〇%陽性ナリ。此反應ハ徵毒ノ外「マラリヤ」病、癌腫ニモ陽性ナリ。然レモ健康者及結核ニハ陰性ナリ。

此他近時黴毒ノ特效藥トシテ實用セラル、サルゾルサンノ靜脈内若クハ筋肉内注射ノ後黴毒性眼疾患ニアリテハ局所反應トシテ角膜周擁充血等ヲ見ルコトアリト云フ。

結核 Tuberculose

結核ノ診斷ニ方リ吾人ハ其臨床的所見ニ據ルコト多大ナリト雖モ、尙ホ結核菌ノ染色、動物試驗、組織學的検査等何レモ必要ニシテ、可カラズ、サレド是等ノ検査法ハ每常遂行シ得ラルベキモノニ非ズ、又遂行シ得ルモ陰性ニ終ルコト少ナカラズ、斯カル場合ニ遭遇シ尙診斷ノ一助ヲナスモノハ「ツベルクリン」反應ナリ。

臨床的所見ガ最後ノ決定ヲ與フル能力無キコトハ最近發見ノ事實ニシテ、例ヘバ往時人ノ毫モ結核ト交渉アルヲ考ヘザリシ、一過性上鞏膜炎乃至結膜濕疹ノ一部ハ確ニ結核性ニシテ、吾人ハ臨床的頗アル眞性ノ結核アルコトヲ知ラザル可カラズ。

甲、結核菌染色法

結核菌ノ染色搜索法ハ必要ナレバ、眼結核ノ最大多數ニ於テハ成績陰性ニ終ルコト常トス。之一ハ材料採取ノ困難ナルト。一ハ局所病竈ニ於ケル結核菌ノ少數ナルト、又菌自家存在セズシテ其毒素ニヨリテ成立スル疾患アルガ爲メナ

ラン。近時諸種染色法ノ改良ト共ニ又ムフ、^{ニコチン}氏改良法アリ、一方アンチフオルミシチヲ以テ結核菌ヲ他ノ細菌ト分別檢出スル法アルモ、眼結核ニハ之ヲ用フルニ由ナシ。

乙、組織學的検査

若シ病竈ノ狀態ニシテ許サバ組織ノ一小片ヲ切除シ、組織學的検査ヲ施行スルコト今モ昔ト異ナラズ。

丙、動物試驗

家兔結膜囊内ニ「コカイン」ヲ充分點眼シタル後、被檢組織ノ一小片ヲ採取シ、或ハ豫メ角膜ノ外上方ニテ「五密迷」縁ヨリ離レテ小鎗狀刀ヲ以テ小創ヲ作り房水ヲ洩シ、次ニ「コカイン」ヲ點シ、二三分ノ後之ヲ「ピシセツト」ニテ挿ミ、家兔前房内ニ挿入スルカ、又ハ此材料ニ生理的食鹽水ヲ加ヘ、乳劑トシテ前房内ニ注射ス、之ニハ豫メ「アラバツ」注射器ノ注射針ヲ刺シ房水ヲ洩シ、次テ其針ヲ應用シテ注射ス。液性ノ材料モ同様ニ所置ス。

材料ハ可及的無菌ニ所置セザレバ、化膿ヲ續發シ成績ヲ無効ナラシム。接種ノ初メ生ズル滲出物ハ徐々ニ吸收セラレ刺戟症狀モ去ル。二―三―四週ニシテ虹彩ニ特異ノ灰白色ナル小結節ヲ生シ、後ニハ全身感染ヲ起シテ斃ル。此試験成績陰性ナルモ結核ヲ非認シ得ズ、蓋シ其材料ニシテ細菌ノ數少キカ毒

力弱キヲアレバナリ。

近時エツセリー *Wessely* ハ斯カル乳劑ヲ「バキア」結膜下ニ注射シタルニ、
頗アル悪性ノ潰瘍ヲ生ジ皮膚ニ及ベルヲ報ゼリ。

「ツベルクリン」反應検査法ニハ種々アリト雖モ大別スレバ。

- 一、皮膚反應
- 二、皮下注射反應
- 三、眼結膜反應

ノ三種トナル、吾人ハ通常ヒルケー皮膚反應及皮下注射反應ヲ檢ス、是前者ハ
簡單ニシテ後者ハ成績正確ナレバナリ。若シ皮下注射ニテ眼ニ局所的反應現
ハレ、或ハ全身反應ト共ニ局所的反應起レバ其眼疾患ハ結核ナリト云ヒ得。然
シ唯全身反應ノミガ陽性ナル場合ニハ直ニ以テ其眼疾患ヲ結核性ナリト主
張スルヲ得ズ。何トナレバ斯カル場合ニハ尙進ンテ其眼疾患ニ對シ他ニ原因
タルベキモノナキヲ確メ、且ツ全身ノ精査ニヨリテ他ニ結核性病竈ノ存在セ
ザナル確メザル可カラザレバナリ。

一、皮膚反應

(イ)ヒルケー *Pirquet* 氏皮膚反應

前膊ノ内側ヲ「アルコール」エーテルヲ以テ消毒シ其皮膚上ニ一〇仙迷ヲ隔テ

、二五%ノ蒸「ツベルクリン」二滴宛滴下ス、次ニ對照ノ爲メニ上記ノ二滴ノ中
央ニ位スル部ノ皮膚ヲ切種器ニテ淺ク亂切シ、次ニ兩滴中ニ切種器ヲ致シ同
様ニ淺創ヲ造ル、而シテ液ノ流下ヲ防グ爲メニ滅菌綿ニテ之ヲ蔽フ、輕便ナル
繃帶ニテ事足ル。

亂切後直ニ發疹生ズルモ、之外傷性反應ニシテ一—二時間ニシテ消失ス。特異
反應ハ唯「ツベルクリン」ヲ接種シタル部ノミニ起リ、早キモ三時間、遅キハ廿四
時間後ニ起ル。即其部ノ皮膚ハ發赤、腫脹、丘疹様ニ隆起ス、形ハ圓形ナル「ア」、
又邊縁鋸齒狀ヲ呈スル「ア」、腺病質ノ小兒ニアリテハ、其縁ニ小濾胞ヲ生ズ
ル「ア」アリ。

反應陰性ナル時ハ三日後ニ同様接種ス。

本法ハ鋭敏、實ニ大人ニハ殆ンド七〇%陽性ニシテ陳舊ナル病竈ヲ存スルモ
反應ス、故ニ若シ此反應陰性ナレバ先ツ結核ヲ非認シテ可ナリ。

此法ハ一般ニ小兒用トシテ愛用セラル、蓋シ其法ノ簡ニシテ危險ナキガ爲メ
ナリ。

(ロ)モロ *Moro* 氏「ツベルクリン」軟膏反應

之ハヒルケー反應ト同シク輕便ニ開業醫ノ實用ニ適ス。五%軟膏(無水「ラ」
リン」ニテ軟膏トス)ノ小豆大ヲ取り、胸又ハ腹ノ皮膚上ニ指端ヲ以テ其徑約五

仙迷大ニ擴ゲ半—一分間中等度ノ壓ヲ加ヘテ塗擦シ、其後十分間露出シ置クベシ。綿帶ヲ要セズ、唯衣服等ニテ摩擦セヌ様ニス。反應トシテハ其塗擦部ニ赤色ノ丘疹ヲ生ズ。

(ハ)近時最モ簡便ナル法

ハ前搏ノ皮膚ヲ「アルコール」「エーテル」ニテ強ク充血スル迄塗擦シタル後舊「ツベルクリン」一滴ヲ此上ニ滴下シ、自然乾燥スルヲ待チ、衣服ニテ摩擦セヌ様注意ス、反應ハ廿四時間内外ニ現出シ、此部ノ皮膚發赤腫脹ス。

(二)皮下注射反應試驗

成績、最モ確實ナリ、豫メ三日間毎二時間(少クモ毎三時間)一回體溫ヲ檢スベシ、若シ卅七度以上ナレバ注射スベカラズ。
注射ハ午後二時ヨリ四時頃ニ施行スルヲ可トス。是反應熱ノ出現ハ通例一二—二四時間後ニアルヲ以テナリ。注射量ハ大人ニアリテハ一「ミリグラム」即チ舊「ツベルクリン」〇、一ヲ生理的食鹽水若クハ〇、五%ノ石炭酸水一〇〇ニ溶解シタル者ノ十分ノ一筒ヲ用フ。但シ虛弱ナル者及小兒ニハ尙少量即チ〇、一「ミリグラム」ヲ用フ。注射部位ハ兩肩岬間又ハ胸部ノ皮下ヲ其トス。注射後ハ二時間毎ニ體溫ヲ檢ス、反應ハ多ク十八—廿三時間ニ高頂ニ達ス。
反應ニ三種アリ、一ニ曰ク全身反應即チ體溫上昇(少クモ三—三七、三以上ナルベシ)

頭痛、惡心、不眠、食慾減退、心悸動。二ニ曰ク穿、刺、部、反應、即チ其部ノ發赤、腫脹、疼痛三ニ曰ク局所反應(稀ナリ)。即チ眼病竈ニ炎症々狀ヲ起スカ、又ハ已ニ炎症アリシ者ガ旺盛トナルナリ(毛様充血、瞼蓋ナル鞏膜炎ノ再炎、角膜沈着及虹彩結節ノ増加、前房出血等)。

第一回注射ニテ唯僅微ノ體溫上昇例ハ三—三七、〇トナリ、及全身違和ヲ感セバ診斷不確ニシテ、更ニ二日ノ後一「ミリ」ヲ注射ス。

第一回注射全ク陰性ナル場合若クハ第一回ノ再試驗的注射ノ陰性ナル場合ニハ更ニ二日ノ後第二回注射(五「ミリ、グラム」)ヲナス。之ニテモ反應ナクレバ(殊ニ體溫三—七、〇ヨリ上昇セザレバ)第三回注射トシテ一〇「ミリ、グラム」ヲ用フ。普通結患者ハ一—五「ミリ」ニテ反應スルモノナリ。

禁忌、體溫三七、〇以上ナルハ、全身殊ニ肺ニ進行性病竈ノ存スルハ、咯血及血尿ノ際及直後、癩癩、重症ノ心臓及腎臟病、動脈硬化症、糖尿病等。

三、ウ、ル、フ、アイ、ス、ネ、ル、Wolff-Eisner 及カルメット Calmette 氏 結膜反應

眼科ニ應用セラル、場合少ナシ、凡テ眼、疾、アルモノニハ好マシカラズ、時トシテ病勢ヲ甚シク増進セシムルヲアレバナリ。〇、五—一%ノモノヲ使用ス。
普通ノ舊「ツベルクリン」ハ「グリセリン」ヲ含ムヲ以テ結膜ヲ刺戟ス、故ニ特ニ眼反應用トシテ販賣スルモノヲ使用スベシ。

ハ、眼、以、テ、皮、膚、ニ、代、用、ス、ル、ハ、眼、科、醫、ノ、認、容、ス、ル、能、ハ、ザ、ル、所、之、歐、洲、眼、科、界、一、般、
ノ、定、論、ナ、リ。

附 錄

七〇四

增訂眼科診斷學 下卷 畢

大正 二十五年五月九日
 明 治 二十五年五月九日
 再 版 再 版 再 版
 初 版 初 版 初 版
 再 行 再 行 再 行

眼科診斷下與附
 正價金 參 圓



纂 著 者
 校 補 者
 發 行 者
 印 刷 者
 印 刷 所

故 宮 下 俊 吉
 宮 下 左 右 輔
 山 口 德 次 郎
 矢 部 政 吉
 正 文 舍
 右 同 所 電 話 下 谷 一 三 六 〇 番

發 兌 元

醫 籍 藥 學 書 及 一 般 醫 療 器 械 專 賣 店
 東 京 帝 國 醫 科 大 學 御 用
 農 商 務 省 認 可 各 種 度 量 衡 販 賣

東 京 市 本 鄉 區 春 木 町 二 丁 目 角
 半 田 屋 醫 籍 商 店

(電 話 下 谷 二 〇 〇 八 番)
 (振 替 貯 金 口 座 東 京 三 四 六 四 番)



肆書捌賣

全	東京市日本橋區通三丁目	丸善株式書店	全	神田區表神保町	東京堂書店
全	本郷區湯島切通坂町	南江堂書店	全	東京市京橋區南傳馬町	目黒書店
全	本郷區春木町三丁目	南江堂支店	全	日本橋區大傳馬町	文林堂書店
全	本郷區龍岡町	吐鳳堂書店	全	日本橋區通三丁目	林平次郎
全	本郷區龍岡町	南山堂書店	全	京都市河原町通	大黒屋書店
全	神田區鍛冶町	朝香屋書店	全	京都市三條通藪屋町	丸善支社
全	本郷區湯島切通坂町	金原書店	全	京都市三條通寺町	南江堂出張所
全	本郷區本富士町	文光堂書店	全	長崎市引地町	安中集榮堂
全	本郷區本富士町	明文館書店	全	熊本市新町二丁目	長崎次郎
全	本郷區龍岡町	朝陽堂書店	全	金澤市片町	宇都宮書店
全	本郷區龍岡町	根津書店	全	仙臺市新傳馬町	金英堂書店
全	本郷區龍岡町	文榮堂書店	全	岡山市ノ町	渡邊宗次郎
全	本郷區湯島切通坂町	宮澤書店	全	千葉縣千葉町	明文館支店

關西大賣捌

大坂市心齋橋筋博勞町(電話東二百五十八番) 松村九兵衛
 大坂市心齋橋筋一丁目(電話東八十四番) 丸善株式支店
 名古屋市中區榮町六丁目(電話東九百八十番) 丸善書店

醫學博士 小川劍三郎先生撰

萬國式珍試視力表

●正價金六十錢 郵稅八錢

コノ表ハ萬國共通試視力表ノ内日本人ニ不適當ナル數字ノ部ヲ省キ全體ノ形ヲ
 小ナラシメタルモノニシテ拔紙ニ張附ケ上部ニ環ヲ附セルヲ以テコレニ由テ壁
 面ニ懸垂スルコトヲ得ベシ更ニコレヲトリテ四折スレハ眞ニ袖中ニ收サメ得テ携
 帶ニ便ニ尤モ往診用ニ適ス裏面ノ餘白ニハ臨牀上有益ナル數表ヲ收メタリ

●四ツ折レ折疊
 自在八面刷大判
 ●優美クローズ
 箱入●携帶至便

マドックス氏大板

斜檢 四枚 一組
 視出 正價八十五錢
 郵稅八錢

大學式視野表

紙質 百枚ニ付
 最良 正價四十五錢
 郵稅八錢

◀ 絕雙之界學科人婦科產 ▶

醫學博士 佐藤勤也先生著

(全二冊 正價金四圓廿四錢)

新訂 十七版 實用產科學

全貳冊
▲總紙員一千數百頁
▲著色石版圖四十表
▲緻密寫真圖六十個
▲精巧木版圖八十個
▲精工寫真圖七十個
▲密書四頁圖七十個

今回發行前卷 正價二圓廿五錢 ▲第十後卷 正價二圓十八錢 (美裝金字入本綴)

第十七版 前卷 郵稅十圓八錢

本前卷第十七版 成ル今改訂ノ要點ヲ示サ
ル爲メ 約五十頁ヲ増スルニ至レリ是レ著者ガ日進月歩ノ新圖五十個
紙數メ シテ本書ガ前版ニ比シテ頗ル面目ヲ改メタルハ自カラ明亮ナリトス好學ノ士願クハ速カ
ルモノニシテ本書ガ前版ニ比シテ頗ル面目ヲ改メタルハ自カラ明亮ナリトス好學ノ士願クハ速カ
ニ一本ヲ購メラレ弊店廣告ノ誣ヒザルヲ試ラレンコトヲ

醫學博士 佐藤勤也先生著

新訂 十一版 實用婦人科學

全貳冊
▲總紙員一千數百頁
▲美紙員一千數百頁
▲著色石版圖四十表
▲緻密寫真圖六十個
▲精巧木版圖八十個
▲精工寫真圖七十個
▲密書四頁圖七十個

前卷 正價二圓五十錢 郵稅十圓八錢 ▲後卷 正價二圓七十錢 郵稅十圓八錢 (全二冊 正價金五圓二十錢)

發行所 東京市本郷區(寧) 電話下谷二〇〇八番(四番) 半田屋

第一年第一冊	紙員菊列五百餘頁 著色石版表二百餘頁 精巧寫真表五十五頁	郵稅價 拾貳圓
第一年第二冊	紙員菊列五百餘頁 著色石版表二百餘頁 精巧寫真表五十五頁	郵稅價 拾貳圓
第二年第一冊	紙員菊列五百餘頁 著色石版表二百餘頁 精巧寫真表五十五頁	郵稅價 拾貳圓
第二年第二冊	紙員菊列五百餘頁 著色石版表二百餘頁 精巧寫真表五十五頁	郵稅價 拾貳圓
第三年第一冊	紙員菊列五百餘頁 著色石版表二百餘頁 精巧寫真表五十五頁	郵稅價 拾貳圓
第三年第二冊	紙員菊列五百餘頁 著色石版表二百餘頁 精巧寫真表五十五頁	郵稅價 拾貳圓
第四年第一冊	紙員菊列五百餘頁 著色石版表二百餘頁 精巧寫真表五十五頁	郵稅價 拾貳圓
第四年第二冊	紙員菊列五百餘頁 著色石版表二百餘頁 精巧寫真表五十五頁	郵稅價 拾貳圓
第五年第一冊	紙員菊列五百餘頁 著色石版表二百餘頁 精巧寫真表五十五頁	郵稅價 拾貳圓
第五年第二冊	紙員菊列五百餘頁 著色石版表二百餘頁 精巧寫真表五十五頁	郵稅價 拾貳圓

抄録欄 ◎歐文抄譯欄

- 移植シ得可キ鷄腫瘍ニ就テ(第三報告)
- 鷄ニ發生セシムシニエロアノニシテニ種新生物ニ就テ
- 生殖管及卵頭部ニ原發セシ腫瘍ノ各一例並ニ引照
- 二例 腫瘍性肝腫瘍ノ一例
- 初期 腫瘍性肝腫瘍ノ一例
- 興味アル實質性肝腫瘍ノ一例
- 興味アル實質性肝腫瘍ノ一例並ニ初期性結節ニ就テ
- 胸腺腫瘍ニ就テ
- 生活組織體外培養試驗第一、鶏脾臟及鶏肉腫細胞
- 頭下透視ニ關シテ

癌 本邦研究之機關

第六年第一冊 紙員約二百六十餘頁 著色石版寫真版十九表 密書插入 價貳圓 郵稅拾貳錢

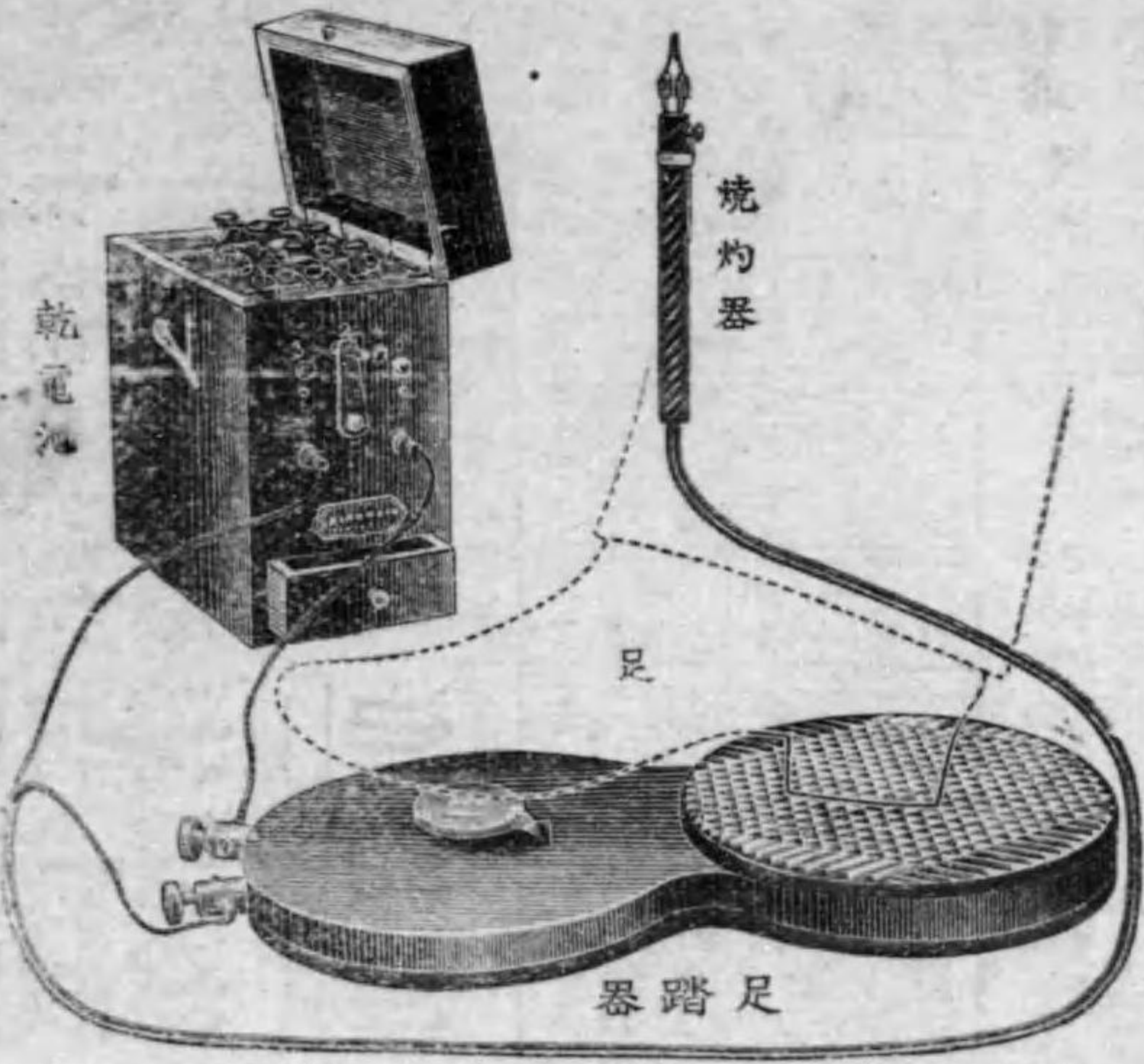
正價 廿二圓 郵稅 五十錢

十冊出版

癌研究會 會長 醫學博士 青山胤通先生
副會長 醫學博士 本多忠夫先生
同 副總裁 醫學博士 山極勝三郎先生
同 副總裁 醫學博士 山極勝三郎先生

2D-58

東京駿河臺醫學博士井上達二先生考案(實用新案登錄願)
 井上眼科病院院長醫學博士井上達二先生考案(第七三一九四號)
足踏式電線接續器
 (說明書附) (構造頗ル優美)



會總會ニテ同先生ガ演說セラレタルニ極メテ好評ヲ博シ諸彦ヨリ多數ノ御用命ヲ得タル故更ニ改良ヲ加ヘ販賣致ス事ト相成候ニ付陸續御注文アラシム事ヲ願上候
 ●改正眼科器機圖入代價表御入用ノ諸氏ハ御申込次第無代送呈可仕候

「足踏器、燒灼器、導線、乾電池箱入」
 全一具 正價金八圓五拾錢 荷造小包料五拾錢
 別々ニモ 足踏器 金貳圓五拾錢
 燒灼器 金貳圓五拾錢
 導線 金貳圓五拾錢
 乾電池箱入 金參圓五拾錢
 分賣仕候譯

特長 本器ハ眼科學ニ於ケル最新ノ學理ヲ應用シタル極メテ完全ナル燒灼電氣ナル日本在來ノ燒灼電氣又ハバクレン御使用ノ方ニシテ一度本器ヲ試用セラレバ次ノ三大特長アルヲ發見セラレベシ

(一) 本器ハ足踏式ナレバ電流閉スルニ當リ振動ヲ少シモ手術スベキ手ニ及ボサザル大利益アレバ眼科燒灼ノ目的ニハ必要缺ク可ラザルモノトス (二) 足踏器ヲ用フレバ低溫ニシテ燒灼シ得ルヲ以テ極メテ精密ニ燒灼セシムル所ノミチ燒灼シ得テ在來ノ器ノ如ク健康部ヲ大傷セシムル憂ナシ (三) 本器ヲ使用スルニハ極メテ簡單ナルレバ點シモ電氣學ノ素養ヲ要セズ

注意 (一) 本足踏器ハ在來ノ燒灼器ニ直チニ應用シ得レバ既ニ燒灼器等ヲ御持合方ハ足踏器(代價金貳圓五拾錢)ノミチ御買ヒ求メアレバ宜シ (二) 本燒灼器ハ特別輪環裝置アレバ此燒灼器及乾電池ノミニテ足踏ナクモ在來ノ通り燒灼ナスルヲ得

本器ハ本年仙臺ニ開催セシ第十六回日本眼科學會ニ

(帝國各國醫學大御用)
發賣元 東京市本區 牛田屋醫學器部
 東京市本區 牛田屋醫學器部
 東京市本區 牛田屋醫學器部
 (電話番 二〇〇八番) (振替口座東京三四六番)

終

